

パネルディスカッション

「カプセル内視鏡と粘膜治癒」

司会 勝木 伸一（小樽掖済会病院）

江崎 幹宏（佐賀大学医学部内科学講座消化器内科）

炎症性腸疾患（IBD）では粘膜治癒達成を目指して適切な治療介入を行うことが推奨されている。粘膜治癒評価はこれまで大腸内視鏡検査を中心に論じられてきたが、クローン病では小腸病変評価の重要性がクローズアップされるに伴い、カプセル内視鏡（CE）の有用性に関する報告が増加している。また、潰瘍性大腸炎における CE の位置付けについても、前処置の工夫により新たな展開を見せている。本セッションでは CE を用いた IBD 粘膜病変評価に関する演題を広く募集し、IBD 診療における CE の有用性について討論したい。